

多賀



地域をつなぐ祭り

早くも百花繚乱の春を迎えました。地方新聞では方々の春祭りの記事が掲載され華やかな衣装を身に纏ったお渡りや絢爛豪華な神輿を担う掛け声が伝わって来るようです。

祭りは、氏子崇敬者を始め多くの人々の魂を奮い起こし、人と人の心を結び、そして和める力があり、地域に根つき先人たちが護ってこられた伝統であります。更に、地域の振興と人の融和の源であり、盛大に執り行う事で平和と安定にも繋がります。日本の国は、各地で行われるお祭りを基盤にして発展してきたのです。

しかし、過疎化が叫ばれる昨今、祭りを継承するのに様々な問題が存することを認めざるを得ません。人口の多い都市部の空洞化、過疎地域では猶更の事で奉仕者の減少等、夫々時代と共に露呈する諸問題に対処しながらも知恵を絞り、より満足できる祭りが継承されてきました。時の趨勢の中で祭りも姿を変え、時代に応じて成長した祭りもあり、地域の特殊性を生かし、お供え物や神事に係る神賑行事も特色あるものの、いずれもその地域の伝統であり文化として受け継がれてきました。

祭りは、例祭と言われる通り、同じ時期に同じように執り行われる事が第一である事は変わりありませんが、お祭りの意義や精神を正しく理解し心を籠め神職・氏子の皆様が一体となってお祭りする事でお祭りに参列し奉仕する姿勢や心構えが変わり、より盛大な祭りになるのではないのでしょうか。

王朝時代から綿々と伝わる当社の「古例大祭」は地域の平安・安寧・穀物の豊穰にあらゆる商工業の繁栄を祈る大切な地域挙げての重儀で、先人達が様々な困難を乗り越え護り伝えてきた大切な宝であります。

氏子崇敬者の皆さんと共に、地域の宝の一つとして先人の思いに心を致し、次の世代に引き継いで参りたいと願っています。祭りに格段のご理解とご協力をお願いし、共に繁栄を祈り、お祭りを楽しみたいと存じます。

宮司 片岡 秀和

多賀まつり

古例大祭

鎌倉時代の古記録にも現れる当社年間の最重要儀。

当日、四月二十二日は午前八時半から大祭を斎行。午前十時には列次を整えてお渡りが出発します。

その行列は馬頭人・御使殿を中心に騎馬供奉四十数頭、御神輿や御鳳輦の供奉者など鎌倉時代を再現して豪華絢爛の時代絵巻が繰り広げられます。



差定式



馬頭人

たぐち げんたろう
田口 源太郎氏

昭和23年9月7日生（満76歳）

- ・住所 彦根市本庄町
- ・現職 たぐち農産株式会社 会長
多賀大社豊年講 大世話係
- ・褒章 黄綬褒章（農業）



御使殿

こすが しょうき
小菅 翔輝氏

平成16年4月1日生（満20歳）

- ・住所 犬上郡多賀町八重練
- ・現在 龍谷大学 三回生

※令和7年3月1日現在



祭りのハイライト富の木渡し



柏の会による奴振り



氏子を中心とした神輿渡御



地元小学生奉仕の倭舞



祈年使

三月十七日

祈年祭奉仕

(豊年講春季大祭)



ふくはら かずま
福原 一馬 氏
彦根市薩摩町 稲地区

〈講員数〉 290名

多賀大社とは節分祭の豆まきに奉仕をした事によりご縁が深まり、今年は昭和100年の節目の年に祈年使の大役を受け、身に余る名誉な事と恐縮しております。

3月17日は滞りなく祈年祭のご奉仕が出来るよう務めて参りたいと思っております。

趣味：ゲートボール・グラウンドゴルフ・家庭菜園



豊年使

十一月二十三日

新嘗祭奉仕

(豊年講秋季大祭)



まえだ よしのぶ
前田 義信 氏
米原市西坂 息郷地区

〈講員数〉 156名

幼少の頃より年初めにはお参りし、夏の万灯祭にもよく出かけた多賀大社におきまして、今年喜寿の年齢を迎える佳節の年に豊年使という大役を引き受ける事となりましたのも何かのご縁であり、恙なく新嘗祭のご奉仕をしたいと思っております。

座右の銘：一期一会



東京に新しい神社ができました
こんげん
根源神社

このたび東京都港区三田の真言宗大本山弘法寺境内に多賀大社の御分霊社「根源神社」が建てられました。

去る令和六年十一月十三日、多くの寺院関係者が参列する中、稲毛権宮司以下三名の神職によって遷座祭と竣工奉告祭が執りおこなわれました。

弘法寺管長の小田全宏氏は、地元彦根市のご出身で、東京大学卒業後、松下政経塾に学ばれ、独自の人間教育・経営哲学を实践するため全国各地で講演活動と研修会を展開されています。また、平成五年より十年間、地域リーダーの人材育成をめざして創設された多賀大社文化振興基金の「多賀創世塾」塾長をつとめられ、そのご縁もあって今回の神社建立となりました。

郷祭りとしての 多賀大社祭礼

滋賀県立大学 教授 市川 秀之

令和五年三月に多賀町教育委員会が中心となり多賀大社の全面的な協力によって『多賀大社等祭礼調査報告書』が刊行された。これは近江の郷祭り調査の一環として行われたもので、私はその調査を担当する委員会の長として、数年間にわたり多賀大社のさまざまな祭礼を見学し、多賀大社が持つ膨大な古文書などについても実見する機会を得た。一連の調査、報告書作成などは随分大変な作業ではあったが、多賀大社のような歴史ある神社の祭礼を、民俗と歴史の両面から詳細に調べることができたのは、望外の幸せであった。

そもそも「近江の郷祭り」とは、国によって「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」という長い名前の文化財として選定されたものであり、郷祭りとは複数の集落によっておこなわれる神社の祭りを意味している。一般に氏神

は各集落に一つ鎮座し、地元の人々はそれを信仰し祭礼を務めるのを常としているが、これとはまた別に広域の人々によって祭祀される神社があり、その祭りが郷祭りなのである。一般の氏子には自分の集落の氏神と広域でまつる神社の二つがあることとなり、民俗学ではこれを二重氏子制と呼んでいる。郷祭りは滋賀県、ことに湖東地域に多くみられるが、多賀大社の春秋の祭礼はその典型例とされたのである。ここでは郷祭りという視点から多賀大社の祭礼を概観してみたい。

『滋賀県神社誌』によれば多賀大社の氏子圏は、現在の多賀町に含まれる一七の集落である。多賀大社の周辺には複数集落によって祭祀される神社は多くあるが、それらと比較しても多賀大社の氏子圏は幅広い。ただ後に述べるように春の古例大祭の主役ともいべき馬頭人



富の木渡し式

はこの氏子圏よりもさらに広い範囲から出されてきた。また大祭に際しては氏子圏以外の村々もさまざまな役割を担っている。

多賀大社の春秋の古例大祭の大きな特色は頭人の存在にある。頭人は氏子を代表して一定の期間を限って神に仕える役目である。現在では多くの祭礼において頭人はくじや年齢順などによって決められているが、多賀大社の場合は神によって定められる差定という古風な形がとられている。多賀大社社務所が出している『多賀大社頭人芳名録』には慶長元年（一五九六）



差定式

以降の、四月祭礼の馬頭人、九月祭礼の頭人が載せられている。昭和二二年（一九四七）までは六月祭礼にも頭人が奉仕していたので、それも記載されている。全体では四〇〇年以上にわたる長期間の記録になるので、概略を知るために一〇〇年単位で、それぞれの祭礼の頭人の居住地を整理してみた。これによって多賀大社の信仰圏の一端をうかがうことができる。

まず春季大祭の馬頭人からみてみよう。基本的には犬上郡の各村から馬頭人は選出されているが、そのなかでもまず気づくのは彦根、高宮といった町場から多くの馬頭人が出されている

ことである。特に彦根からは実に一一五人の馬頭人が出されている。櫻井勝之進氏（昭和五四年〜平成二年 多賀大社宮司）によると馬頭人は三年に一度は彦根から出るようになっていたという。また近世には中山道第二の戸数を持つ宿場町であった高宮からも四〇人の馬頭人が出されており、これら近在の町場の裕福な商人が馬頭人として春季大祭を支えていたことがわかる。現在の豊郷町東部は近世には犬上郡に含まれていたが、近世中期までは馬頭人が出ていないところが一九世紀に入ると選出されるようになり豊郷町八目などは計七名の馬頭人を出している。これらは豊郷に住む近江商人の経済的成長に関連した動きと考えられるだろう。また多賀をはじめとする地元の村々から多くの馬頭人が出ているのはある意味当然であるが、山村地区である旧芹川村（現多賀町）の村々からも近世前期には馬頭人が選ばれている。時代が下るにつれて馬頭人が選ばれる範囲は広がり、近代に入ると犬上郡以外の滋賀県下や、滋賀県外からも馬頭人が選ばれるようになっていく。これらも多賀信仰の広がりの一つとみることができよう。また現在は春季大祭の御使殿は、多賀大社周辺の集落から順番を決めて選ばれているが、近世には多賀大社の神職家が交代でつとめており、これは明治一五年（一八八二）まで続く。

以上のように四月の春季大祭の馬頭人は旧犬上郡全域、あるいはそれを越えた広い範囲から選ばれてきたが、九月の秋季大祭の頭人の選出範囲はまた違った様相を見せる。

九月頭人については犬上郡の村落から選ばれる点は四月馬頭人と同様であるが、とくに多賀大社周辺の村落から出ることが特色である。多賀が三七名と最も多く、土田の二三名がこれに次ぐ。このほか大尼子、敏満寺など一ヶ村が一〇名以上の頭人を出している。これに対して四月馬頭人を多く出していた彦根は二人であり高宮からは出ていない。

現在では春季大祭の馬頭人・御使殿、九月頭人などは選出区域をいくつかさだめてそのなかから選ばれる形に変化しているが、やはり犬上郡の広域の村々が祭礼を支える形には変化はない。多賀大社の春秋の大祭は、非常に広域の人々によって祭祀される郷祭りの代表であり、そこに多賀信仰の大きな特色を見ることができるのである。

参考文献

- 多賀町教育委員会・多賀町立文化財センター 『多賀大社等祭礼調査報告書』 令和五年
- 櫻井勝之進 「多賀大社春祭の頭人」『社会と伝承』一五巻二・三号

節分祭

福は内!
鬼は外!

奉仕者ご芳名(順不同・敬称略)

◆多賀町

高橋 守
松原 浩三
飯尾 俊一
宮野 勝己
内堀 輝男
小林 紳悟
小林 雅世
加藤 義和
尾田 宗久
青木 宏泰
橋山 祝子
川下加代子
鈴木 大祐
川島喜代子

◆栗東市

野村 昌弘
中野 光一
小山 領一
園内 悦雄

◆近江八幡市

分木 賢一
中井 清
沖 茂樹
今宿 裕子
太田 広子
西村由比子
川原崎景一

◆竜王町

澤井 一記
澤井美智代
勝見 太一
犬井 勇司

◆日野町

和田 昇三
和田美代子
木村 郁夫
吉澤 利夫
吉澤加代子
柴田 和英

◆東近江市

込山 佳寛
込山利志栄
小林 和男
小林きよみ
野矢 紀満
山田 浩

◆米原市

岸 明宏
北川 尚子
千葉 康栄
成宮 正彦

◆長浜市

久保田健次
久保田敏子
中村 忠浩
奥川 正洋
奥川 昌代
川崎 竹志
川上 育男
廣瀬 圭孝
宮部 康之
中川英二朗
三木 芳嗣
高山 光生

◆愛荘町

上林 清作
辻 甚誠

◆御礼

福豆奉納
鬼神楽奉納

神崎 治氏
因原神楽団

阿部 千博
森本 博文
高山彦重郎
鳴寺 隆
三宅 勝
大久保 勉
井上 主久
佐々木伸洋
北川 洋一
片桐 祥司
片桐 誠
金森 啓
北村 正士
西川 勇治
長谷川道明
中村 正利
松嶋 喜巳
川瀬 智子
寺田 昭彦
寺田 敦子
吉田 光徳
吉田多美子
前川 重樹
前川 純子
荒北 均
岸田 利彦
上野 陽平
岩田 吉永
内海 弘樹
堀 一郎
杉 義孝
杉 ちずる
◆愛知県
安藤 良兼
安藤美智子

二月二日 節分祭が斎行されました。
今年の日曜日という事もあり境内は多くの福をもとめる参拝者でにぎわいました。
ご奉仕のご縁を以って節分会員になられた一〇九名の皆様をご紹介致します。





この度、昨年の古例大祭馬頭人をご奉仕なされました兒島裕明氏より御影石による大杓子のご奉納を賜りました。ご参拝の際は、延命長寿・無病息災の縁起物として、古来より謂れのある「お多賀杓子」を撫でて頂き、より一層多賀の大神様の御神徳をお受け下さい。

奉納



イレとなるよう整備を実施。また、今回の建て替えにより、便器の洋式化や車イスの方もご利用出来る多目的トイレを新設するなど時代に即した建物・仕様となりました。

本工事は老朽化に伴う改築に加え、当社と多賀町が災害時の避難所提携をしていることから、地域防災計画に基づき避難者五十人あたり一基のト



境内東側トイレ竣工

十二月三日

境内東側トイレは竣工祭を終え、参拝者の利用が可能となりました。工事期間中は大変ご不便をお掛け致しました。

筵寿祭

祭典日	古稀 (70歳)	該当年
5月16日(金)	古稀 (70歳)	昭和31年生 (1956)
5月30日(金)	喜寿 (77歳)	昭和24年生 (1949)
9月23日(火)・㊿	傘寿 (80歳)	昭和21年生 (1946)
10月12日(日)	米寿 (88歳)	昭和13年生 (1938)

お問合せは 多賀大社 崇敬会までご連絡下さい



金婚筵寿祭

当社では結婚50年を迎えられたご夫婦を対象に金婚筵寿祭を行っております。

本年は7月13日(日)に執り行います。

参加ご希望のご夫婦は案内状をお送りしますので神社までご連絡下さい。

本年より世間一般での数え方(結婚された年は0年)で案内する事と致しましたので、昭和50年にご結婚されたご夫婦が対象となります。

昨年ご参加のご夫婦には重複対象になるかと思いますが何卒ご了承下さい。

参加費/ご夫婦で20,000円(祈禱料・記念品・お食事)



献灯初穂料改定

多賀大社万灯祭は、昭和三十年より始まり、七十年目を迎えます。しかしながら、近年の諸物価高騰により、万灯祭設備費が特に嵩み、お祭りの運営に相当なる影響を及ぼしております。

つきましては、甚だ恐縮ではございますが、今後の万灯祭維持継承に向け、この度、献灯初穂料を改定致し、万灯祭運営に資する経費に充てさせて頂ければ幸いと存じて居ります。ご献灯者の皆様方には何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

● 献灯料

(特別) (変更なし)
二〇,〇〇〇円



(大) 十〇,〇〇〇円

← 二〇,〇〇〇円



(普通) 七,〇〇〇円

← 八,〇〇〇円



(筒型大) 五,〇〇〇円

← 四,〇〇〇円



(筒型小) 一五,〇〇〇円

← 二,〇〇〇円



編集後記

昨今あらゆる物の値段が上昇しております。ところで、神社ではお守りの金額などに対して値段という言葉を用いず、初穂料と表現します。

そもそも初穂とは、その年に初めて収穫されたお米や穀物のことを指し、古来より神社に捧げる風習があります。しかしながら非農家の方や初穂の季節が過ぎた場合は金銭を納め、これを初穂料と称しました。従って本来、初穂料の金額は定まっておらず、納める側の心まかせでありましたが、それではいくら納めれば良いか分からない為、初穂料〇〇〇円という表現が生まれ、現在は、お守りなどの金額に用いられるようになっていきます。



多賀大社

〒522-0341 滋賀県犬上郡多賀町多賀 604
tel.0749-48-1101 fax.0749-48-1105
✉ info@tagataisya.or.jp

多賀大社



http://www.tagataisya.or.jp



@tagataisya.official



@tagataisya